

# あくていぶ



うちのこと 誰もみてくれへん  
大きな想いが 詰まっているのに  
アートの世界が 詰まっているのに  
もっともっと 知ってほしいな：  
マンホール蓋談



わがまちたかつき  
切り絵紀行

「高槻市マンホール」

切り絵 作：生地 高芳(高槻市在住)

特集

## アートが伝える ボーダレスな世界

このまち、見~つけた!

あちこち訪問

# ボードレス・ アートミュージアム NO-MA (滋賀県近江八幡市)

**開館時間** 午前11時~午後5時まで  
(変更あり)

**休館日** 月曜日(祝日の場合はその翌平日)  
展示替え期間、年末年始

**観覧料** (※企画展によって変更あり)  
一般 200~300円 高大生 150~250円  
※中学生以下、障がいのある人と付添者1名無料



JR高槻駅を出て、車窓から見える山々も次第に雪景色に変わり、田園風景が広がってきます。近江八幡駅に降りた途端、

空気が一気に冬のそれとなりました。城下町として発展した近江八幡市は、近江商人のふるさととしても知られ、伝統ある町屋や古民家が並び、風情ある街並みが楽しめます。その一角に昭和初期



の町屋をリノベーションして作られた当施設は、2004年6月に開館し、2007年に博物館相当施設の承認を受け「ボードレス・アートミュージアム NO-MA」となりました。「障がいのある人のため」という限定的な役割を担うのではなく、ボードレス・アートという視点を通じて、様々な表現を分け隔てなく紹介し、人の表現が持つ根源的な魅力を伝える美術館です。

## 現在進行形の表現「僕らの主張」

当日は、第21回滋賀県施設・学校合同企画「ing …障がいのある人の進行形」を見学しました。

言葉では伝えにくかったり、会話やコミュニケーションが苦手な障がいのある人たちが、キャンパスに向かって筆を動かし、新聞紙や粘土をこねて制作したものは、日本家屋の温かさに驚くほど馴染み、見る人をほっこりさせる落ち着いた空間を作っていました。



◀ご案内頂いた、運営する社会福祉法人  
グロー（GLOW）～生きることが光に  
なる～ の山之内さん



## 訪問を終えて…

- 制作者は独特の世界観があり、自由な発想で生き生きと制作活動に打ち込んでいる。サポートをしている滋賀県の福祉関係の方の協力が非常に大きい。社会の生産能力に貢献云々より、見るものにホッとさせる優しさと平和な時間を提供している大切な存在感だと思った。高槻にも、こんな場所があったらいいのに…。



▲95歳を迎える母屋のノスタルジックな窓枠に展示された作品は、窓から見える古い町並みに良く馴染んでいる。



▲階段の踊り場に飾られた衣装は、まるで羽を広げて天にはばたいていくよう

- 障がい者のアート展や、作業所の作品には何度か出会ったが、このように常設された美術館は初めて。作家の個性や適性が最大限に引き出され、無心で対峙されたエネルギーでユニークな作品に圧倒され「やられたー」と魂がノックアウト。

「ライブラリー室」では、訪問者全員、ちゃぶ台を囲んですっかりくつろぎ、約束の時間はとくに過ぎているのに、居座ってしまった。天井のハリや欄間、門のかんぬき扉も昔なつかしく、郷愁感マックス、満足度100%だ。障がいのある人の可能性を開拓し、魅力あふれる「この場所」が永遠に続きますように…。

- 障がいの有無に関係なく、とかく「みんな同じ」であることが求められがちな風潮の中で、みんなと同じではない「特性」が、大きな才能を生み出す事を実感しました。独自の発想力や不思議な色づかい、それを支える並外れた集中力など、彼らの生み出すアートを見るほどに「障がい」とは何かわからなくなっていました。



▲ムムム…何だろう??? あちらこちらに走り書きされた「これはたのしい」「てきもない」などひらがなの書き込みにも「ホンマや、ホンマや!」と思わず笑みが出る



▲中庭にある蔵の中での展示では、天井から下がっているたくさんの白い紙がヒラヒラ…と風に揺れていた。ゆったりとイスに座って見上げると、不思議と心が落ち着き、楽しさが沸いてきた。

# このひと、見~つけた!

## 街頭紙芝居師 つるちゃん

(塩崎おとぎ紙芝居博物館・理事 つるたに みつこ 鶴谷光子さん)

今年は戦後80年。紙芝居を通して子どもたちに戦争の恐ろしさ、平和の大切さを伝えていきたい…。そんなつるちゃんにお話を伺いました。

### Q1 どんなきっかけで紙芝居を作ったの?

高槻市の平和展で「動物から考える平和」を企画された時に、天王寺動物園の話をもとに紙芝居「みんなのねがい」を作りました。戦争体験のお話は想像を絶する辛いものばかりですが、私にできることは、紙芝居で平和をつなぐことだと思ったのがきっかけです。

### Q2 どうして平和に特化した紙芝居を作っているの?

めぐり合わせで平和をテーマにした作品を描くチャンスを得られていると思います。それと、小学生の頃から戦争は嫌だったのを覚えています。「八月が来るたびに」という広島の本を見たりしながら、やっぱり嫌だとずっと思っていました。

昔から私の中にある正義感みたいなものと、いろいろな人とのつながり、かわりの中から今の私があります。

### Q3 これからやってみたいことは?

紙芝居は作って終わりではなく、人の前で演じてこそ完結します。取材を始めてから10年以上かかっている満蒙开拓青少年義勇軍に志願された記録紙芝居「凍りの刃」、並行して作成中の従軍看護婦の体験を描いている「愛国の花ものがたり」を完成させて、口演に漕ぎつける事を目標に頑張りたいです。

また、所属する塩崎おとぎ紙芝居博物館に訪れたスペインの芸術監督が紙芝居に魅せられて「日本の文化と言えば歌舞伎や漫画などは有名ですが、紙芝居というこんなすばらしいものがあるのか」と関心されていました。塩崎おとぎ紙芝居博物館所蔵の「桜姫」は、ニーズに合わせて英語で演じたりもしています。もっとたくさんの人に街頭紙芝居を知ってもらいたいです。



「みんなのねがい」人間の身勝手な戦争の犠牲になった動物たちの命を通して、平和を訴えます。

カンカン、カ〜ン。乾いた拍子木の高い音が鳴ると、お楽しみ時間の始まり・はじまり〜



(紙芝居を見て) 世の中には、情報はたくさんあるけれど、つるちゃんの紙芝居は、絵や言葉から伝わる感動や臨場感が、その場にいる人の心に直接響き、訴えてくる。

紙芝居のお楽しみの一つ水あめや、かたぬきと共に、心の栄養として残りました。



「赤い夕陽に」満蒙开拓青少年として満州にわたった当時の過酷な体験を取材して、絵にしてみました。

# 地域が元気でいきいきと

高槻市人権まちづくり協会では、中学校区ごとに地区単位会を設置し、市民が中心となり心豊かなまちづくりに取り組んでいます。



▲第一中学校区単位会：10月開催  
元宝塚ジェヌの歌声で心をつなぐ、ご縁をつなぐ



▲第三中、第四中、如是中学校区単位会：10月合同開催  
「優しさは笑顔から」 笑顔で地域を元気に！



▲第六中、冠中学校区単位会：  
11月合同開催ミニ平和展「まことの平和を紡ごう」



▲第十中学校区単位会：9月開催たそがれコンサート  
学校と地域が連携したコンサート



▲第七中学校区単位会：3月開催ミニ平和展「命について考える」

校区名	その他地区単位会のふれあいアップ講座
第二中学校区	日 時 令和6年10月19日(土) テーマ うけようマンモグラフィ検診 ～命と家族の笑顔を守るために～
第四中学校区	日 時 令和7年2月15日(土) 早春ふれ愛トーク2025 テーマ 幸せの作り方 ～被差別の歴史をもつまちに生まれて～
第八中学校区	日 時 令和6年10月25日(金)・30日(水) テーマ シニアライフを楽しむために
第九中学校区	日 時 令和6年6月26日(水) テーマ 次世代へつなぐ地域のたから
阿武野・阿武山中学校区	日 時 令和7年2月26日(水) テーマ シニアライフを楽しむために
川西中学校区	日 時 令和7年1月26日(日) テーマ 全盲のミュージシャン ピアノライブとトークショー
如是中学校区	日 時 令和6年6月25日(火) テーマ 誰もが自分らしく暮らせるまち
芝谷中学校区	日 時 令和7年2月14日(金) テーマ 地球温暖化・気候危機は待たなし… 市民・地域から持続可能な未来を
城南中学校区	日 時 令和6年10月5日(土) テーマ 心がつながるコーラスの魅力 ～心も体もリフレッシュ～

## 令和6年度人権啓発作品入選作品のご紹介

作文の部

最優秀賞

### 今、目の前にあることを大切に

高槻市立榎田小学校5年生 辻本 鉄

僕は2年前に中村哲さんのドキュメンタリー映画を観ました。砂ぼこりのたつ砂漠が、数年後に広い緑の森に変わったシーンが印象的で忘れられません。全部理解するには僕はまだ幼かったと思います。高槻市の平和展をきっかけに、新聞を読んだり、別のドキュメンタリーを観たりして、改めて中村さんについて調べてみました。

中村さんは37歳のときパキスタンの病院で働き始めます。たくさんの患者がいましたが、その診療所にはまともな道具もなく停電もしょっちゅうでした。戦争で傷ついた人々が隣国のアフガニスタンから来ていました。そこにこそ病院が必要でしたが、言葉や文化の違い、厳しい環境には誰も行きたがりませんでした。「誰も行かないから私達が行くのです」と、中村さんはその村に診療所を作りました。

2000年、アフガニスタンで大干ばつが起きます。水がないと作物が育たず、食糧がなく人々は飢え、病人が増えました。のどの渇きに耐えられず泥水を飲む子供たちもいました。人口が急激に減り、村が消えました。中村さんは病気を治す前に水があると井戸を掘り始めます。

そんな中、アメリカでテロ事件が起きます。その報復としてアフガニスタンは空爆を受けます。激しい状況下でも、井戸を掘り続け、ようやく1,600本の井戸が完成しました。しかし、戦争が激しくなり難民は増え、水が不足し、井戸が枯れてしまいます。

56歳の時、水路を作る計画を立てます。活動を支援する資金やボランティアが少しずつ集まります。家族を養うために戦争に行った村の人々が、銃を捨てシャベルに持ちかえ、一緒に工事を進めます。失敗とやり直しをくり返し、7年経った2010年、27kmの用水路が完成します。約60万人が食糧に困らなくらせるようになりました。

そして、2019年、中村さんは作業現場に向かう途中、銃撃され亡くなります。

僕は、臨海学校で舞鶴引き揚げ記念館に行きました。日本兵が強制労働させられていたシベリアはマイナス20度。分厚い服を着ていても夜中に死んでしまうほど寒かったそうです。亡くなった人の服をみんなで奪い合ったと聞き、僕はショックでした。ふつうは亡くなった人の服をはぎ取ることなんてできません。次々と仲間が死に、次は自分の番かもしれないと思う状況で正常な判断はできないのでしょうか。僕たちは平穏にくらせているから、罪悪感を持てるし人を思いやれるのだと思いました。

僕は、戦争をしないこと、平和であることを強く願いました。でも、願うだけでいいのでしょうか。ぼくにできることはあるのでしょうか。「平和には戦争以上の忍耐と努力が必要」と中村さんは言いました。でも、僕は、何をどう努力すればいいのか正直わかりません。それに、僕には中村さんみたいなことができる気が全くしません。苦手な数学を勉強し、シャベルで地面を掘り人力で岩を動かし、何年も何年も危険な異国で自分の人生をかけて村の人のために働く。いつ終わるかも分からない、考えるだけで気が遠くなります。



写真提供：PMS（平和医療団・日本）

「一隅を照らす」は、中村さんが大切にしていた言葉です。自分の目の前の事を一生懸命やること、それが広がり良い影きょうを生むということだと僕は思いました。

中村さんは、初めからアフガニスタンの村を救おうとしたのではなく、目の前のひとりの患者を助けたいと思った。スローガンや議論を抜きに実践してきた人です。

僕にできることは、自分が大切に思い、やりたいと思ったことを一生懸命やる事だと思いました。それがぐるっと回って、僕の家族や友達、まわりの大切な人を幸せにできたらうれしいです。中村哲さんの考え方を僕の人生のヒントにしたいと思いました。

## ✿ 作文の部

最優秀賞	榎田小学校5年生	辻本 鉄さん
優秀賞	第九中学校1年生	奥 奏仁さん
優秀賞	五領中学校1年生	中井 美羽さん
優秀賞	川西中学校2年生	竹田 心花さん
優秀賞	芝谷中学校1年生	山邊 杏さん
佳作	五領小学校2年生	正木 詞葉さん
佳作	榎田小学校6年生	尾山 祉太郎さん
佳作	第九中学校1年生	山田 莉緒さん
佳作	柳川中学校1年生	小出水 舞さん
佳作	柳川中学校1年生	平野 こころさん
佳作	五領中学校1年生	加藤 風詩さん
佳作	川西中学校2年生	青木 心晴さん
佳作	如是中学校1年生	岡元 悠馬さん
佳作	芝谷中学校3年生	神屋 拓真さん
佳作	阿武山中学校2年生	池田 侑姫さん

## ✿ 絵画の部

最優秀賞	第二中学校1年生	大谷 結菜さん
優秀賞	高槻小学校4年生	内田 光さん
優秀賞	阿武山小学校6年生	田中 悠愛さん
優秀賞	五領中学校1年生	本庄 南実さん
優秀賞	城南中学校2年生	福山 結太さん
佳作	玉川小学校6年生	比嘉 一愛さん
佳作	北清水小学校6年生	三浦 璃子さん
佳作	阿武山小学校6年生	山下 蓮斗さん
佳作	第二中学校1年生	軽部 夏菜さん
佳作	第二中学校1年生	篠原 咲羽さん
佳作	第二中学校1年生	西野 美月さん
佳作	五領中学校1年生	大西 智久さん
佳作	五領中学校1年生	東條 彩晶さん
佳作	一般	田辺 憲子さん

## ✿ 標語の部

最優秀賞	一般	舟崎 彰芳さん
優秀賞	富田小学校6年生	内田 桜さん
優秀賞	津之江小学校4年生	樽見 稀咲さん
優秀賞	松原小学校1年生	田中 美沙さん
優秀賞	第三中学校2年生	藤本 楓さん
佳作	清水小学校5年生	牟田神東 澄玲さん
佳作	清水小学校6年生	中本 妃鶴さん
佳作	富田小学校6年生	餅田 早季さん
佳作	北大冠小学校6年生	佐々木 大和さん
佳作	郡家小学校6年生	永山 花那さん
佳作	北日吉台小学校5年生	安田 海翔さん
佳作	阿武山小学校4年生	西川 悠馬さん
佳作	第二中学校1年生	赤星 芙羽さん
佳作	第四中学校2年生	田村 結斗さん



標語の部 最優秀賞



絵画の部 最優秀賞

講演会 “心の豊かさを求めて”を開催します

テーマ 寂聴さんと私 ～共に過ごした10年から～

講師の瀬尾まなほさん（瀬戸内寂聴さんの晩年の秘書）から、寂聴さんとの心豊かな思い出をお伝え頂きます。

日時 令和7年6月14日（土）  
午後2時～（開場：午後1時30分）

会場 市立生涯学習センター 2階 多目的ホール

定員 要事前申込順300名

申込期間 5月7日（水）～6月6日（金）  
もしくは定員に達するまで

申込方法 ☎647-7825 FAX647-7233（平日：午前8時45分～午後5時15分）  
又は協会ホームページから（24時間受付）



参加料  
無料

手話・  
要約筆記  
あり

保育あり  
3歳以上未就学児  
5名まで  
要事前申込

平和の願いを込めて  
折り鶴を作りますか

当協会が企画・運営する高槻市主催「平和展」では、折り鶴を募集しています。今年度は12,000羽もの折り鶴が寄せられました。

折り鶴は、たとえ一羽でも、平和を願う皆様の折り鶴が集まれば、大きな願いになります。一年を通して折り鶴を受け付けていますので、ぜひお届けください。



問合せ・連絡先

高槻市人権まちづくり協会事務局  
市立富田ふれあい文化センター内事務局 ☎694-5451  
市立春日ふれあい文化センター内事務局 ☎671-9604

コラム

一休さんの遺言



絵本やテレビアニメでお馴染みの一休さんが、臨終の際に「この遺言状は、将来、この寺に大きな問題が起こったときに開けるように、それまでは決して読んではならない」と言い残したそうです。

僧侶たちは一休さんの教えに従い、決して遺言状を開けることはありませんでした。その理由は、この遺言状が「いざという時にあれば必ず助けてくれる」という安ど感があったからです。

そして、一休さんが亡くなって100年を経た時、僧侶たちにとって大問題が起こりました。ついにその遺言状が開かれることになり、僧侶たちは、固唾をのんでゆっくりとその遺言状を開封しました。

さあ、何が書かれていたと思いますか...？

そこに書かれていた文は「大丈夫。心配するな、何とかなる」の一言だったのです。

その言葉により、僧侶たち一同に笑顔があふれ、落ち着きを取り戻し、明るさと勇気をもって、その大問題を解決したそうです。

人権啓発指導員 藤澤 善富

編集後記

平和展で市民から寄贈された折り鶴を広島平和記念公園に奉納してきました。折しも日本被団協が長年の悲願であったノーベル平和賞の受賞があった2024年の暮れ。

今回、平和記念公園の西側にある国際会議場で、高校生が描く「原爆の絵」を見学してきました。被爆者が高齢化する中、ここでは高校生が被爆者から直接体験を聞き、何度も話し合い、修正しながら絵を仕上げていくことで、平和の尊さについて考え、後世へ継承していく交流を行っています。

その体験が生徒自身の未来への平和をつなげるための“力”となっていくということを知り、力強く感動しました。私たちも平和展を地道に、活動し続けることの大切さを改めて感じた日でした。

編集発行／一般社団法人 高槻市人権まちづくり協会（☎647-7825）

「あくていぶ」は協会ホームページからもご覧になれます。

7 <https://www.takatsuki-jinmati.org/> 高槻市人権まちづくり協会 検索

Follow Me!!



Instagram  
takatsuki.jinmati

